

線条体から中脳へ：DaT-SPECT によるパーキンソン症候群鑑別の可能性

NHO 仙台西多賀病院 パーキンソン病センター長
馬場 徹

^{123}I -FP-CIT SPECT (DaT-SPECT) は線条体ドパミントランスポーター (DAT) 分布を可視化し、その視覚評価はパーキンソン病 (PD) およびパーキンソン症候群 (PS) における黒質線条体ドパミン神経変性検出のゴールドスタンダードである。一方、DaT-SPECT では PD と PS の鑑別はできないとされてきたが、近年、中脳・橋の DAT への集積が PD / PS 鑑別に有用な可能性が注目されており、本講演では黒質線条体系以外への ^{123}I -FP-CIT 集積へ視点を広げた我々の検討を紹介する。

第一に、小脳皮質を基準に中脳・橋への集積を 4 段階評価する視覚的評価法を提唱した。橋への集積は PS で有意に低下し、中脳・橋の集積パターンが PD / PS 鑑別に補助的な役割を果たす可能性が考えられた。

第二に、視覚評価の主観性と部分容積効果の課題を克服すべく、中脳集積の半定量的評価法を開発・検証した。ファントム実験で定量の妥当性と再現性を確認し、臨床検討では PD / PS 鑑別に有用な判別能を認めた (Totsune et al. in preparation)。

以上より、中脳・橋の DAT への ^{123}I -FP-CIT 集積は、線条体 DAT に続く補助的バイオマーカーとして PD / PS 鑑別に資する可能性がある。本講演ではこれらの成果と今後の展望を概説する。

略 歴

2003 年 群馬大学医学部卒	2018 年 NHO 仙台西多賀病院脳神経内科
2003 年 済生会宇都宮病院	2020 年 同 パーキンソン病センター長
2005 年 東北大学病院神経内科	2026 年 東北大学大学院医学系研究科連携講座
2008 年 東北大学大学院医学系研究科	高齢者認知・運動機能障害学講座
神経内科学分野	准教授 (併任)
2012 年 東北大学病院	
高次脳機能リハビリテーション科 助教	
2016 年 同 講師	現在に至る

■所属学会・資格：

日本内科学会、日本神経学会、日本認知症学会、日本高次脳機能障害学会、MDS、
日本神経治療学会 評議員、MDSJ 評議員